

4. 東京港における水域保全対策

東京港内の水域をきれいな水辺に維持したり、海洋汚染の防止や水生生物の生育環境を良好に保全するためにさまざまな取組みを実施しています。

港内清掃事業

東京港内に浮遊しているごみや流木などを船舶（清掃船）により回収します。回収したごみや流木などは、陸上で分別・裁断をして、運搬船（母船）で東京都から指定されている処理施設（中央防波堤内側）へ運搬をして処理をしています。

【清掃船】

第一、第二、第三、第五、第六、第七清海丸及び清海丸（母船）



清掃船 清海丸



回収した浮遊ごみ



回収した流木

【塵芥回収実績】

(単位：m³)

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
2,097	2,352	2,002	1,859	2,065

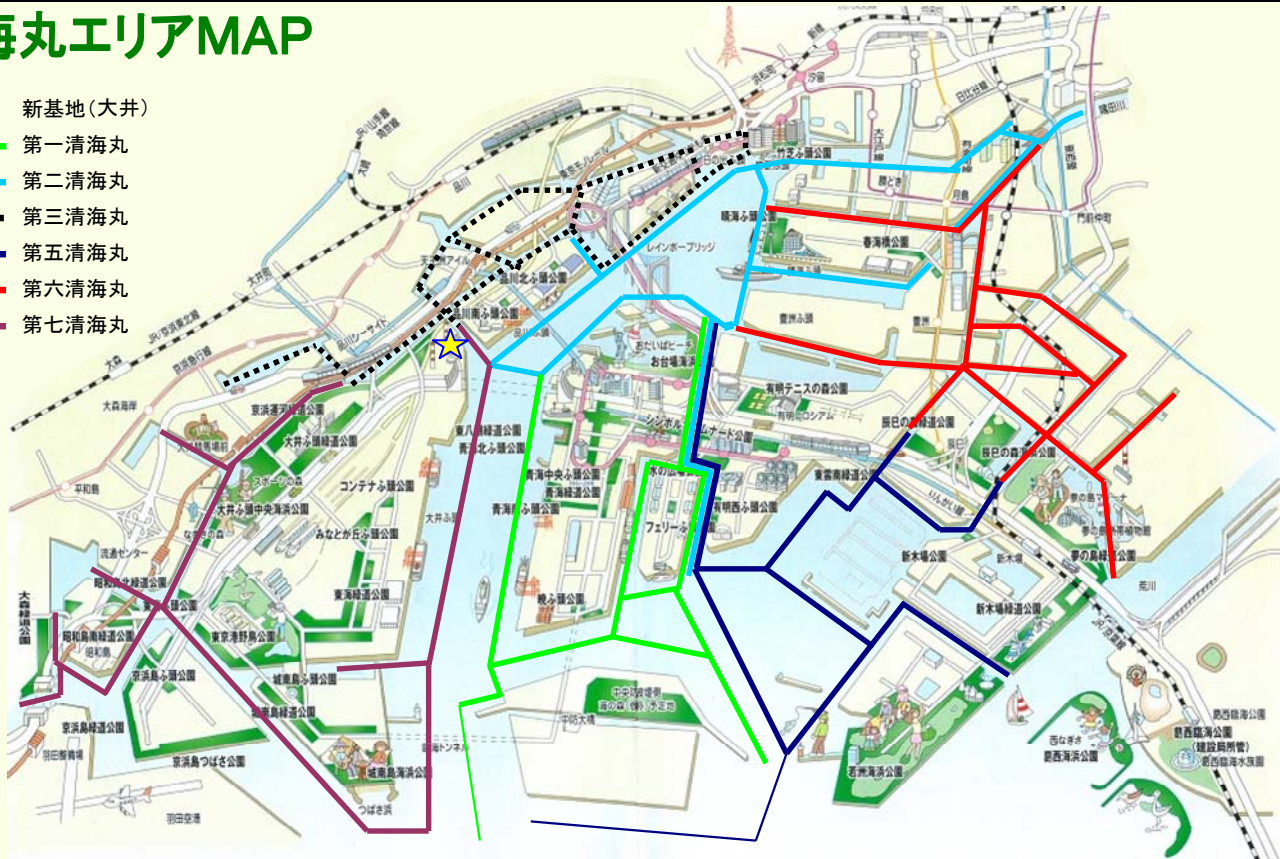
※台風等天候により増減があります。

【今後の取組】

- 測深機を用いて水深マップを作成するなど、さらに効率的な塵芥回収を行ない東京港の環境保全に努めます。

清海丸エリアMAP

- ★ 新基地(大井)
- 第一清海丸
- 第二清海丸
- ⋯ 第三清海丸
- 第五清海丸
- 第六清海丸
- 第七清海丸



廃油回収事業

海洋汚染を防止するため、東京港に入港する船舶から出る廃油を回収し、東京港の環境保全に努めています。回収した廃油は、契約している処理業者（川崎港、清水港）へ運搬又はタンクローリーでの引き取り処理をしています。

【廃油回収船】

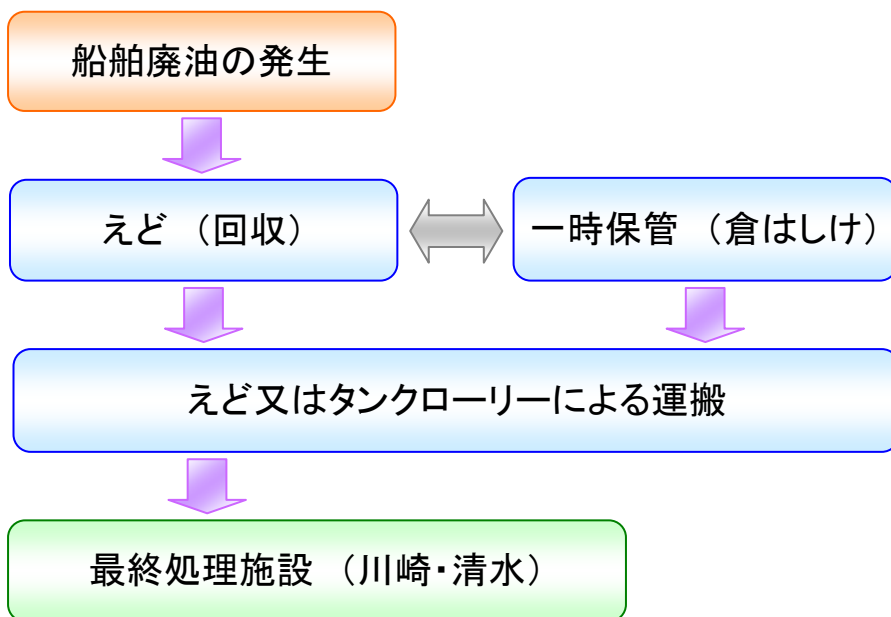
船名	材質	総トン数 (トン)	船体寸法 (m)				用途・形式	定員 (名)	主機動力 (ps)	燃料使用量 l/ha重油	速力 (ノット)	タンク (m ³)	航行 区域
			長さ	幅	深さ	喫水							
えど	鋼	105	29.06	6.70	2.80	2.55	油そう船	6	800	130	10.0	218	沿岸 区域

【廃油回収実績】

(単位: kℓ)

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
934	1,062	1,027	967	1,086

【廃油処理の流れ】



集油船 えど



廃油回収作業

羽田沖浅場維持管理事業

東京都が造成した羽田沖浅場の水域環境を良好な状態に維持するために、さまざまな試験、調査を行い「生物多様性」の保全に貢献しています。

実施に当たっては、「羽田沖浅場運営協議会」を東京都とともに開催し、漁業関係者等の意見の反映に努めています。

【羽田沖浅場の概要】

空港拡張により失われた浅場を再生するため、東京都により昭和63年から平成12年にかけて浅場造成が行われました。造成された浅場の面積は250ha、総延長は約7kmにも及びます。



底質改良試験

海底土壌の堅固化を防ぐために、海底耕耘を行っています。耕された海底土中には、酸素を多く含む海水が浸透して底質が改善され、底生生物の生息環境として良好な状態となっています。

藻場造成・繁殖試験

藻場は、水質浄化に役立ち生物の産卵場所、稚魚などの成育場所として海域生物には非常に重要な場所です。これまで、ワカメの藻場造成試験に取り組み、「水平延縄方式」による藻場造成技術を確認するなど、成果をあげることができました。平成18年度からワカメに代わってアマモの藻場造成試験に取り組んでいます。



魚類生態調査

羽田沖浅場の魚介類生息状況を把握するため、魚類調査を実施しています。これまで、マハゼ、ボラ、マアナゴ、アサリなど30種類以上の魚介類が確認されています。



水質・底質調査

羽田沖浅場の水質・底質の状況を確認しています。計器による観測や採水・採泥による分析から得られたデータは、羽田沖浅場の水域環境や生物の生息条件を評価するための重要な資料として利用します。



バンドン採水器



エクマン採泥器

稚貝・稚魚の放流

羽田沖浅場では、水産有用種の良好な漁場を再生させる目的で、アサリの稚貝を放流しています。近年、自然繁殖したアサリも多く見られるようになりました。また、豊かな漁場の回復を目指してクロソイ等の稚魚の放流を地元の小学生との交流を図りながら行っています。

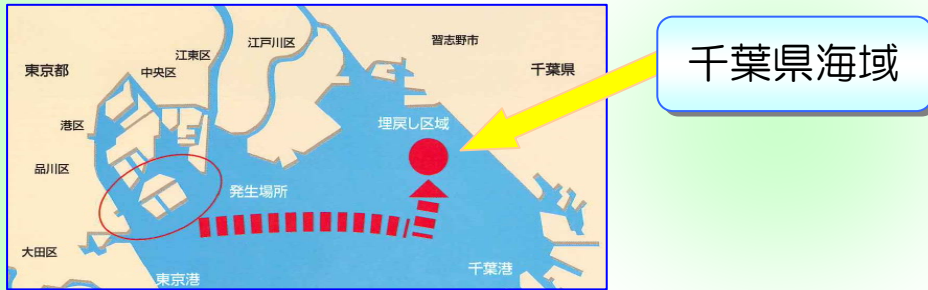


水底土砂有効利用事業

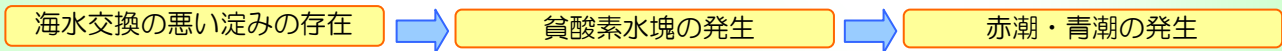
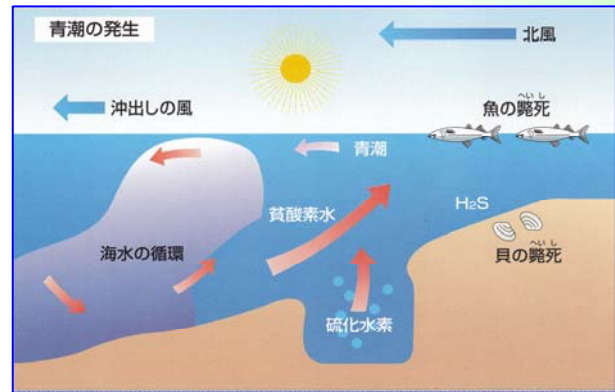
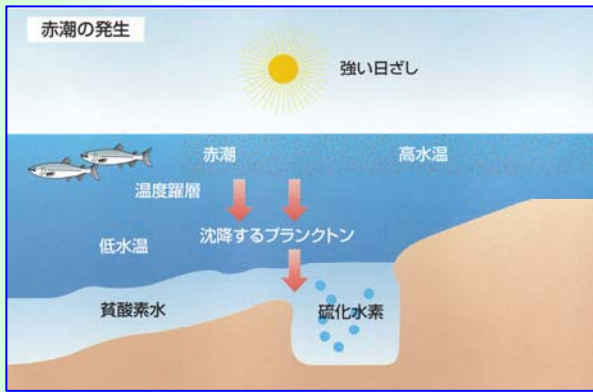
千葉県沖の海底には、埋立用材確保の結果できた深堀部が点在し、魚介類が斃死（へいし）する青潮等の発生原因となっています。当社は、東京都が行った東京港内のしゅんせつによる良質な水底土砂を深堀部の埋め戻し用材として有効利用し、水生生物の良好な生育環境を回復しています。

東京港の航路等のしゅんせつ土砂を有効利用し、自然環境の回復に努めています。千葉県及び千葉県の漁業関係者の理解と協力により、平成8年から事業を行っています。

【発生場所と埋戻し区域】



【深堀部の現状】



【深堀部の埋戻し】

埋戻しは、環境に配慮し、トレミー管を搭載した揚土埋戻し船による「トレミー工法」を用います。

トレミー工法

- トレミー管で水底土砂を埋戻し、汚濁等の影響を抑えます。
- 埋め戻し工事が周辺へ与える影響を監視するため、水質調査を行いながら工事を進めていきます。

